

# 千里地理通信

関西大学地理学研究会会報 第59号

Newsletter of Geographical Institution, Kansai University

## Contents

Page 1 .....

### 巻頭言

龍の国での集中講義

高橋 誠一

Page 2 .....

### 学窓から

新生活のはじまり

水落 仁美

### 一泊巡検報告

上野 修平

Page 3 .....

卒業論文・修士論文・課程博士論文  
題目一覧

### 卒業生の活躍

Pages 4~5 .....

### 研究ノート

地域に根ざした公共バス交通  
～高千穂町営バス「ふれあいバス」から見えるもの～

曾我 傑

Pages 6~7 .....

関西大学地理学研究会会員の皆様へ  
のご連絡

### 教室だより

平成19年度会計報告

Page 8 .....

### 随想

都市景観のインタビュー

松村 嘉久

### 新入会員より

Pages 2~3, 6

### 新院生紹介

Pages 6~7

2007年2月、沖縄県那覇市の国際通りに面した居酒屋でのこと。ベトナム国家大学ハノイ理科大学のファン先生、カー先生、トゥアンさんなどと琉球料理を楽しんでいた。そのおりにベトナムの先生方から、ぜひとも歴史地理の講義をお願いしたいと言われた。同席の野間教授からも勧められた。酔いにまかせて承諾してしまった。

8月28日の午後10時、ハノイのノイバイ国際空港。トゥアンさんが迎えに来てくれた。宿舎のデューホテルは豪華である。贅沢とは思ったが、初めての訪問でもあるということでここを選んだ。ハノイは河内の意味。11世紀に首都タンロンが置かれたが、タンロンとは昇龍。龍の国での講義がどうなることかという不安感でその夜の眠りは浅かった。

翌日から3日間、10名ほどの地理専攻の大学院生に対して日本語による講義をした。通訳は同大学の日本学研究所のリン先生など4名の方であったが、その方たちも受講してくださった。8時から2時間の昼休みを挟んで17時まで。連日、古代日本の都市とその周辺(条里制、国府、条坊制—飛鳥・横大路・平城京・恭仁京・紫香楽宮・平安京)と琉球(首里、唐栄久米村、今帰仁、八重山の格子状集落、与論島、石敢當)について話した。土地勘のない受講生であることを考えて、パワーポイントで地図を多用しての講義であったが、通訳の先生方の懇切な補足もあってかなりの理解をしてもらえたようであった。

このことは帰国後、受講生からメールで送られてきたレポートを読んでも納得できた。とにかくにも受講生のレベルの高さには、ほとほと感心した。トゥアンさんからの要望もあって、講義時には適宜、質問や討議の時間を設けたが、受講生の反応やセンスのよさに感嘆することがしばしばであったし、なによりも楽しかった。講義終了後、受講生からネクタイと妻へのスカーフを感謝の言葉とともにいただいた。

講義期間中の昼食は1日目と3日目はトゥアンさんとともに大学近くの食堂でとったが、2日目にはカー先生がご自宅に招いてくださった。医師をしておられる奥様も交えて、昼食というよりもまさにハレの宴会料理を賞味させていただいた。犬肉もすすめられて、少しだけ。ところが大学へ戻るためのタクシーがつかまらない。カー先生の娘で受講生でもあるハートイ

ンさんのバイクに乗せてもらって間に合った。バイクに若い女性と相乗りなんて初めての経験であった。しかし、ローマの休日という映画のシーンを連想する余裕はなかった。緊張していたのであろう。

毎夜、地理学教室のスタッフによる歓迎会。おいしい海鮮料理とハノイビールをご馳走になったが、せめて講義の最終日にはとお願いして、地理教室と通訳の先生方、そして受講生を招いて、感謝の宴を持たせていただいた。全員からうれしくなるようなお褒めの言葉とプレゼント。感激と感謝に満ちたひと時であった。

9月1日7時、ホテルを車で出発。カー先生とトゥアンさんとともに、世界遺産ハロン湾に向かった。10時30分に到着。この地は外敵に攻められたときに龍の親子が降りてきて、敵を排除してくれたという。そのおりの龍から発せられたものが奇岩として多くある。中国の桂林の海洋版である。船で遊覧、新鮮な魚介類、洞窟も見学した。ハロンの夜は、カー先生なじみのレストランで、先生の教え子たちも交えての愉快的交歓会となった。

翌朝、ホテル横の食堂でフォー、ハノイへの途中でチキン料理の昼食ののち、14時にハノイへ着いた。通訳をしてくれたザンさんが、案内したいと申し出てくれていたので、彼女と二人のハノイの休日となったわけである。還剣池、文廟、宮殿発掘現場と考古学研究所。ザンさんから集中講義の内容を聞いた発掘担当のチューさんから、歴史地理の手法を教してほしいとの要望があって、講義用に用意していたパワーポイントのCDとレジュメをさしあげた。「ぜひとも発掘に歴史地理の方法論を適用して発展させてほしい、そしてあなたが偉くなったら、僕の銅像を建立してください」との、言わずもがなの冗談を口にしてしまった。

この数時間のこと、本当はもっと詳しく書きたいのであるが別の機会に譲らざるを得ない。夕食はファン先生、ザンさんと。トゥアンさん親子にも見送られて空港へ。23時10分の飛行機、3日の5時30分に関西に着いた。楽しい一週間のおかげで、完全にベトナムびいきになってしまった。受講してくれたハートイさんは、現在、関西大学のグローバルCOE東アジア文化交渉学教育研究拠点のRA研究員である。地理学というのは未知の地域と人との出会いと広がりである。(本学教授)

## 龍の国での 集中講義

高橋誠一

井村 幸

こんにちは！！二回生の井村幸です。私は幼い頃からいろいろな地域の農業や地形などに興味があり、「大学では地理学を学びたい」と思い、関西大学地理学教室に入りました。よろしくお祈いします。ちなみに野球がとっても好きで、福岡ソフトバンクホークスのファンです。

岡村香寿美

はじめまして。岡村香寿美です。体育会弓道部に所属しているため、たいてい袴姿で行動しています。学芸員と司書の資格をとろうと思っていますので、地理学関係の授業はあまりとっていませんがよろしくお祈いします。

吉川悠紀

大阪の堺出身です。地学とか好きだったので自然地理学系に興味があります。よろしくお祈いします。

土井康子

堺出身の土井康子です。地理学教室の個性的なメンバーに囲まれ、これから学んでいくことにわくわくしています。よろしくお祈いします。

羽原康雅

こんにちは。岡山県出身の羽原康雅です。地理は高校で全くやっていなかったため常に新鮮な気分です。旅行は、お金と地図さえあればどこでも行けます。よろしくお祈いします。

井上ひろほ

はじめまして。井上ひろほです。高校のダンス部でダンスを始めて、大学でもダンスサークルに入りました。寒いのがとても嫌いで暑い方が好きです。よろしくお祈いします。

地理学専修に編入して1年数カ月が経過した。今まで体験したことのないフィールドワークは無我夢中で取り組んだ。編入して早々、和歌山県の巡検に行くことになり、私は、地場産業班に属して、黒江漆器について調べた。私の出身地、和歌山県の黒江漆器が日本を代表する漆器だったことを初めて知った。他にも湯浅醤油、蚊取り線香など、日常で使用されているものが和歌山の地場産業になっていることなど、出身地であっても知らないことが多々あり、自分の知識のなさを痛感させられた。また一度訪れたことのある日ノ御崎も、カナダ資料館へ行き、歴史文化を学んだ後に再び訪れたときには、新たな見方ができた。

また2・3年生の授業を同時進行していたため、後輩たちとも調査を行えた。私のチームは江坂周辺の都市化や店舗の営業形態について調査したのだが、普段目に留めないものが地理学と繋がっていることを知った。他にも多様なテーマがあり、後輩たちからも新たな考え方や視点を学ぶことができ「こういう考え方もあるのか。」と感心する日々だった。

最後の地理学実習で沖縄県の今帰仁村へ調査に行ったときには、聞き取りやアンケート調査が順調に進まず、行き詰まりそうになり不安でいっぱいだったが、仲間に支えられ問題改善をすることができた。また地域の方とも交流でき、人との出会いもフィールドワークの楽しさだと感じたのはこのときだった。

他にも地理学が染みついてきたと実感するのが、観光をするときである。以前から旅行が好きでさまざまな地域を訪れていたが、地理学を学んでからは、いわゆる観光名所でないところに興味を持ち、地域の自然や文化を学びながら観光をするようになり、ここにきてやっと大衆観光から抜け出したようにも思える。

地理学を通してさまざまなことが吸収でき、日常でも物事に対する見方が変わった。そして関大の地理学専修に編入して先輩方や後輩たち、地理学教室のさまざまな人々と交流できたことが大変嬉しかった。振り返ってみると地理学教室の人々に助けられ前進することができた1年となり今、感謝の気持ちを伝えたいと思う。(本学4回生)

## 一泊巡検報告

上野 修平

千里地理通信をご覧の皆さん、こんにちは。大学生生活5年目の上野です。先生方から「君、学年もアレヤから、君が千里地理通信に書いてくれ」と指名され、「はい、喜んで!」と私が書かせてもらうことになりました。

さて、私たちは2008年5月31日・6月1日に中国山地へ一泊巡検に行つて来ました。今回は「自然」「歴史」「統計」「商業」「農林業」「観光」の6班に分かれ、その中でテーマを絞って調べました。

31日土曜日、JR 新大阪駅に集合し、バスで中国自動車道を走って、実栗防災センターへ向かいました。そこでは、山崎断層の説明を受け、防災センターの床下にある免震装置を見せてもらいました。そこから山崎断層の露頭を観察した後、「あわくらんど」へ向かい、13時ごろにそのあわくらんどでお弁当を食べました。

その後は鳥取県智頭町へ行きました。智頭では石谷家住宅を見学しました。石谷家住宅は鳥取県八頭郡智頭町にある歴史的建造物で、江戸時代に鳥取藩最大の宿場町として栄えた智頭宿で最も大きな建物の一つです。主屋一階土間の高さ14mの吹き抜けが特徴的でした。

こうして、一日目の活動を終え、夜はウッディ加茂でおいしい夕食をいただき、先生方や大学院生、OB3名(岡本訓明さん、吉兼崇博さん、曾我 傑さん)と懇親会をしました。寝る

前に星空を見たんですが、とても綺麗で、異常に興奮しました。

二日目は8時40分にウッディ加茂を出て、バスで美作加茂駅へ向かい、電車に乗り、JR津山駅へ。そして、津山城下町、津山商店街を見学し、最後は津山城に行きました。津山城から見下ろす町並みは私を成長させ、この町は私のものだと勘違いさせられました。高いところから見下ろす風景はたまらないです。

今回の巡検を終えて、振り返ってみて思ったことはフィールドワークの大切さです。私は「智頭林業」が担当だったのですが、「国道53号線沿いの森林の美しさを堪能してください」と書かれた文献があり、どんなものかと期待していたんですが、実際に見てみると、見事に手入れがされており、とても美しかったです。やはり、行って、見ることで得るものは大きいし、人から話を聞くことでより興味がわくものだ、と思いました。

最後になりましたが、この巡検調査を指導して下さった先生方、大学院生の方々、どうもありがとうございました。私たちに協力して下さったすべての方に感謝しています。では、地理学教室のみなさん! 今回の巡検調査を活かして、秋の壱岐の調査も仲良く、楽しく、真剣にがんばりましょう。

(本学4回生)

## 卒業論文・修士論文・課程博士論文一覧(2008年3月卒業・修了生)

## 〈卒業論文〉

- 安宅 真生 和歌山県の4海岸に見られる自然景観とその利用  
 金丸 哲士 三宮町と元町通における都心商業の実態  
 久保 佳美 豊後水道沖の島における食をめぐる生活世界  
 上土井 舞 路面電車再生の可能性—熊本市電を事例に—  
 高島 正樹 高知県東部の町並み保存と活用—新しい取り組みと現状—生活の場・観光の舞台—  
 田頭 沙織 北摂山地の岩盤崩壊—箕面トンネル建設に関わる地質調査資料入手に伴って—  
 田口 史記 桜井市における製材業の展開と木材団地における土地利用の変遷  
 武田 和樹 尼崎城下町の商業機能の消滅と新商店街の台頭  
 田橋 智美 奄美大島大和村に見られるビーチの侵食環境  
 中島 千恵 福井市における大型ショッピングセンター地区の展開と地域性—大和田地区を中心として—  
 堀内 毅 ヨーロッパにおける国境を挟む地域に関する考察  
 前野 真慶 富有機質土の<sup>14</sup>C年代測定—池島・池内・下三橋遺跡産出層を事例として—  
 三宅 雄大 阪急神戸線西宮北口駅周辺の変化—阪神大震災前と現在—  
 山口 祐史 大阪府門真市における密集住宅地域の形成過程とその再生

## 〈修士論文〉

- 匡 達伶 エコツーリズムの展開と地域観光の動向—中国麗江、熊野古道中辺路、六甲山地区を例に—  
 白澤 武蔵 近畿地方数ヶ所の考古遺跡にみられる細粒堆積物の堆積環境の復元  
 飼牛 敬大 西洋料理店の立地とその展開  
 河野 俊英 1990年代後半以降の大阪都心部における上場企業のオフィス移動  
 丁 佳潔 国際小売業の中国進出に関する研究  
 谷 真理子 洛陽における妙見信仰の分布と展開  
 川合はるな 奈良県 曾爾村の“小場”の機能と形態  
 曾我 傑 地方公共交通の限界の利用実態と過疎地域—日南線沿線と高千穂鉄道沿線の比較・分析—

## 〈課程博士論文〉

- 岡本 訓明 近代日本の歴史的都市における街路と都市構造の研究

植田恵里香

こんにちは!! 植田恵里香です。趣味は映画みることと、カラオケ行ったり、ボーリングしたりワイワイすることが好きです。友達からはのんきでマイペースと良く言われる私ですが、皆よろしく頼みます。(=・^・^=)

岩井友里

初めまして、今年地理学教室に入った岩井友里です。出身地は大阪市平野区で整でアルバイトしています。趣味は旅行で、今年の夏は名古屋に行く予定です。これからどうぞ宜しくお願いします。

吉川沙織

吉川沙織です。京都出身です。高校では地理やったことがありませんが、地理を学んでみたかったので、選びました。自然地理に興味があります。宜しくお願いします。

中岡陽香

大阪生まれの大阪時々奈良と群馬育ちの中岡陽香です。国内外問わず旅行が好きで、気のむくままふらっとどこかに旅立っては日記まじりの旅行記を書くのが趣味です。大学の4年間で、できるだけ多くの場所を訪れてみたいと思っています。

米恵理佳

はじめまして。羽曳野出身藤井寺在住の米恵理佳です。マンドリンクラブでマンドリン弾いてます。11月22日(土)に吹田メシアターにて定期演奏会をするのでもしよければお越しください。

上地真由

こんにちは。上地真由です。大阪生まれ育ちです。うどんと沖縄が大好きです。宜しくお願いします。

## 卒業生の活躍

- 平岡昭利さん(下関市立大学経済学部教授)の『離島研究Ⅲ』が2007年11月に海青社より刊行されました。  
 ■賀納章雄さん(吹田市立博物館)が課程博士論文として書かれた『南島の畑作文化—畑作穀類栽培の伝統と現在—』が2007年10月に海風社より刊行されました。  
 ■三木理史さん(奈良大学文学部准教授)の『世界を見た明治の写真帖』が2007年9月にナカニシヤ出版より刊行されました。  
 ■西岡尚也さん(琉球大学教育学部准教授)の『子どもたちへの開発教育』が2007年4月にナカニシヤ出版より刊行されました。

- 恵山幸由[とくやまゆきよし]さん 富士通エフ・アイ・ビー株式会社西日本総支社アウトソーシングサービス部に勤務する恵山さんは9年前、高橋ゼミに所属していた。このほど、和泉市国際交流協会によって氏の和泉国府に関する論文が評価され、本年7/1-7/6間、和泉市の姉妹都市アメリカ合衆国ブルーミントン市の150周年記念式典および歓迎レセプションに市民代表として出席した。レセプションでは、ブルーミントン市役所の部長職以上、消防署長、警察署長などが出席するなか、和泉市の歴史について、約10分間報告したということである。高橋先生はこの恵山さんの快挙に大変喜んでおられた。

## 橋本征治先生今年度末、ご退職：第2報

## 古稀記念祝賀会 2009年3月28日(土)開催、記念号原稿募集

関西大学地理学教室卒業生の方々の多くは橋本征治先生から教えを受けたことと存じます。1969年4月1日関西大学文学部に着任。地理学教室開闢の日です。当時、宇田米夫、末尾至行、服部昌之の各先生がすでに着任しておられました。最若年スタッフとして活動を開始され、今日に至るまで、地理学徒はもちろん学内さらに他大学でも多くの学生に接し育ててこられました。ご退職は2009年3月31日で、関西大学は40年間の長きに及びます。標記のとおり、古稀記念祝賀会を予定しています。最終講義は、3月28日(土)午後2時より4時まで関西大学千里山学舎で開催します。ご退職の記念号を発行します。橋本先生との思い出を是非、お寄せいただきたいと思ひます。電子メールがあります。受付担当は野間先生 noma@ipcku.kansai-u.ac.jp です。電子メール利用の環境が無い方はお手紙やはがきでも問題ありません。大阪府吹田市山手町 3-3-35 関西大学地理学教室野間晴雄先生までお願いします。頂く原稿について下記にまとめます。

原稿内容の要件：本文(橋本先生に関連した思い出)、タイトル、お名前、卒業または修了年。

本文字数：900字まで。思い出の写真やスケッチなどを含む場合には、その分のスペース900字中に確保してください。特集号はA5サイズになる予定です。

思い出の写真：添付ファイルでもプリントでも結構です。プリントで返却希望の場合、応じます。集合写真で一人一人の顔が小さい場合は写真ページの方に掲載したいと思ひます。お持ちでしたら是非お寄せください。印刷手続きの後、ご返却いたします。

締め切り予定：10月15日

なお、8月1日にメール便にて橋本先生古稀記念事業のお願いを卒業生各位に発送致しました。

地域に根ざした公共バス交通 ～高千穂町営バス「ふれあいバス」から見えるもの～

曾我 傑

はじめに

高千穂町は宮崎県北西部、九州山地に位置し、人口14,779人（宮崎県で15位）、人口密度62.27人/km<sup>2</sup>（宮崎県149.07人/km<sup>2</sup>）（いずれも2005年10月1日現在）の町である。産業別就労者については、第1次産業従事者29.45%、第2次産業従事者20.15%、第3次産業従事者50.39%（いずれも2007年現在、なお宮崎県全体では、第1次産業従事者12.65%、第2次産業従事者22.84%、第3次産業従事者63.63%）となっている。山村ながら第3次産業従事者の割合は比較的高い。宮崎県では屈指の観光地であり、ホテルの従業員など観光と関連のある職業に就いている人の多い点が挙げられる。天孫降臨の地として名高い高千穂町は、天照大神が隠れた岩屋が祀られている天岩戸神社などといった神話と関係の深い土地をはじめ、高千穂峡といった風光明媚な観光地もある。また、11月～2月にかけては、各地域で夜通し神楽が舞われ、多くの観光客が訪れる。

このように観光に力を入れている高千穂町であるが、町内のバス交通は生活路線としての性格が強く、厳しい状況に置かれているのが現状である。

1. 町営バスの運行形態

高千穂町内のバス路線は、乗車密度が5人以下の路線が大半を占めていた。加えて、1990年から町によって、1993年からは県によって、運行にかかる諸経費への補助が行われてきたが、乗客の減少に加え、廃止代替バスに指定される路線も年々増え（すべて宮崎交通、あるいは系列会社の宮交タクシーに委託運行）、補助額もますます増加し、2003年度には県と町で合わせて約4289万を補助した。宮崎交通の経営も苦しくなっていたことや、県による高千穂町への行政評価でバス交通に関する補助金の見直しが提案された。そこで、補助の形態の見直しと地域に密着したバスの運行を目指して、2004年10月1日より町営バスでの運行が始まった。そして、町営バスには「ふれあいバス」という名称がつけられた。

町営バスの運行で変わった点として、運行形態の見直しが挙げられる。宮崎交通への委託運行時は、各集落から市街地にあるバスセンターまで直通運行していたものの、同じような時間帯にバスが運行されるため、中心地に近づくほど、バスが立て続けに来ていたことに加え（ダンゴ運転と呼ばれる）、バスによっては数人しか乗車しておらず、大きな車体に空席が目立つ状態も少なくなかった。また、ほとんどがバスセンター止まりで、役場や病院といった公共施設に向かうバスの便は多くはなかった。そこで、町営バスでは、運行の効率化を図るため、図1中の中心市街地～中集落間にあたる2路線（「幹線」と呼ばれる）は、宮崎交通による中型車を用いて委託運行を行う一方で（図2、左）、一部路線では図1の「中集落」にあたる停留所で町の運行するマイクロバスに乗り換える方式とした。しかし、高千穂市街地側の起終点をバスセンターではなく高千穂町立病院・高千穂温泉と、公共施設へのアクセスを強化し、効率化だけでなく利便性も高めた。

そして、特徴的な運行方式として、公民館連絡協議会（いわ

ゆる自治会）と連携した点が挙げられる。図1中の町直営の中集落～小集落を結ぶ路線にあたるのが6路線あるが、これらの路線については公民館連絡協議会と町が連携する体制を整えた。高千穂町は15人乗りの小型車両を6路線にそれぞれ1台ずつ配置し（図2、右）、他に予備車両の3台を所有した。加えて、町は運行管理の責任を負い、バス車庫の確保や経費負担、各路線の地域内でのバス運転手の確保と利用促進運動の2点について、公民館連絡協議会への依頼を行うようにした。一方、公民館連絡協議会は、各路線の地域内でのバス運転手の確保、利用促進運動の展開（成果に応じ高千穂町から自治活動助成金を交付）、バス車庫の整備を行うこととした。バス運転手は町のパート職員という位置づけであり、時給は900円、勤務時間は各路線によって異なるが平均約8時間である。運転手は60歳代が最も多く、農業や商店の経営など他の職業と兼業している者も多い。公民館連絡協議会との連携は、運行形態を見直すことで、運行経費の削減が行えるだけでなく、公民館連絡協議会に責任と参加意識を持たせることで、自分たちの地域のバス路線という意識を醸成し、バス路線の維持に繋げること、すなわち住民参加型のバスにするという目的がある。この点については次節で述べることにする。なお、運行経費に関しては、町営バスに移管後、欠損額が宮崎交通運行時の約3628万円（2003年度）から約1565万円（2005年度）へと約2063万円減少し、一定の効果が見られた。

2. 利用の実態

行政にとっては宮崎交通に委託していた時より諸経費を抑制し、欠損額を減少させることができたという点で、大きな効果が見られたが、利用者は高千穂町による運行変更を、あるいはふれあいバスに対してどのように感じているのか。そこで、私はマイクロバスで運行されている6路線のバス車内にアンケートを置かせていただき、運転手に利用者へ配布していただくようお願いをした。そして、利用者の方に回答後、運転手の方に渡していただくようお願いをした。調査日時は、2006年9月5日～2006年9月12日で、全路線合わせて155枚配布した。回収率は36.8%（155枚中57枚返答あり）である。回答者の性別は男性が29%、女性が71%、年齢構成は65歳以上の高齢者

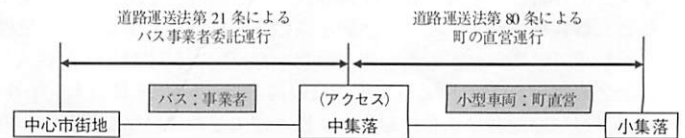


図1 ふれあいバスの運行形態 出典：高千穂町総務課提供資料



図2 ふれあいバス（左：中集落での幹線バス、右：中集落～小集落のマイクロバス 2007年8月26日撮影）

が58%を占め、40～64歳、21～39歳、20歳以下はともに14%であった。

利用回数に関しては、57人中50人から「毎月利用する」という回答を得た。そこで、毎月利用される方に対して、利用目的について質問したところ、最も多いのが通院で、次いで多いのが買い物のための利用であった(表1)。通院が最も多いのは、回答者の58%が65歳以上の高齢者であったことが影響していると考えられるが、日常の利用実態が如実に表れている結果であるといえる。1週間の利用目的については、複数回答式にしたが、50人中15名が通院と買い物の2項目に答えていた。また、通学の利用も8名見られるが、私が通学時間帯に町営バスに乗りしていると、特に幹線において、高千穂高校の生徒を必ず見かけたのに加え、高千穂小学校の児童の利用も見かけた。小学校や高校まで登校する、あるいは自宅まで下校するのに、徒歩や自転車では時間のかかるような所に集落が点在していることに加え、高千穂町内は起伏に富んでおり、自転車では通学しにくい環境にある。そして、高千穂高校ではバイク通学が認められていないため、通学時間帯にバスを利用する生徒が大変多いと言える。高千穂バスセンターは昼間の時間帯は通院や買い物の高齢者の方で活気づいているが、通学の時間帯は高校生で活気づいている。私が下校時間帯に町営バスの幹線に乗りした際、16名中、私と高齢者の女性2名以外は高千穂高校の生徒と高千穂小学校の児童であった。

そこで、上記の利用者50名が、高千穂町による運行になったことに対してどのように感じているのかについて、バスの本数等サービス面を中心に質問したところ、宮崎交通による運行から高千穂町による運行に変わって、半数の利用者が改善されたと回答していた(図3)。そこで、どのような点が改善されたと感じるのか、また、宮崎交通の運行時の方がよかったと答えた方にはどんな点で宮崎交通による運行がよかったと感じているのかということについて、質問した。

改善されたと答えている方で最も多かった回答は、運転手の対応であった。「改善された」と回答した29名中15名がこのように答えている。町営バスの運転手は、先述したように公民館連絡協議会が中心となって集めた各路線の地域内に居住する方で、利用者の住居まで知っていることも少なくない。私が乗車した際も、運転手と利用者間で会話が弾んでおり、「〇〇さんの家はここか。」と聞いて、バス停以外の所でも利用者の自宅の前、あるいは近くで降ろしていた。アンケートでも、「運転手様はとてもよい人」「家の前にバスが来る」ということを評価している回答が見られた。そして、運転手の方も、「ふれあいバスという名前の通り、ふれあいを大切にしています。」とおっしゃっていた。運転手がバス車内に飴玉を置いたり、逆に利用者の方が運転手に色々差し入れをしてくださることもあるそうである。このように、利用者と運転手の関係や車内の雰囲気や地域に密着したバス交通という概念を作り出し、バスを通した1つのコミュニティが形成されるのであり、運行存続を支えていく主要な要素であると言える。

他には、運賃の改善(運転手の対応に次いで多い回答)、高千穂町立病院への直通、運行地域の増加を挙げている。運賃体系が見直され、初乗車100円とし、距離に応じて200円、300円、…と100円ずつ運賃が変わるようにしたこと、宮崎交通による運行時と比べて分かり易く、かつ全体的に運賃が安くなったことに加え、運行面では、バスが小型化(マイクロバス化)されたため、狭い道での走行も可能になり、宮崎交通による運行時の終点よりさらに奥の集落へ入るようになった点も、

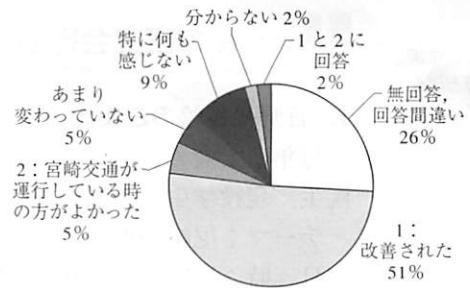


図3 町営バスに対する利用者の意識

表1 利用頻度と利用目的

	買い物	通勤	通学	通院	その他	計
ほぼ毎日	2	3	8	6	0	19
1週間に数回	8	0	0	11	1	20
1週間に1回	3	0	0	5	0	8
2週間に1回	2	0	0	4	0	6
1ヶ月に数回	2	0	0	6	0	8
1ヶ月に1回	1	0	0	2	0	3
計	18	3	8	34	1	64

利用者が「改善された」と感じる要因となっている。

一方、「宮崎交通の運行時の方がよかった」と回答した方について注目すると、まず集落によっては、宮崎交通による運行時はバスセンターまで直通していたものの、町営バスによる運行に変わって前述したように中集落の停留所で乗り換える方式となった点に不便さを感じることを指摘していた。次いで、バスの便数やダイヤについての回答が多く見られ、特に日曜祝日の運行の要望が高かった。宮崎交通による運行時は、日曜祝日も運行されていたものの、現在は、マイクロバスで運行される路線(図1の中集落～小集落を結ぶ路線にあたる)においては、日曜祝日と12月30日～1月3日は全便運休である。

他に、バス車両に関する回答も見られた。一部の路線では積み残しが発生するほど利用率の高い事態が日常的に発生し、乗客数に応じて運転手が役場に連絡し、途中のバス停から予備の車両や他の路線の車両を用いてもう1台運行させる事態となっている。私が乗車した際も、あと1～2名で定員に達しそうになったので、運転手が連絡を取り、別の車両がやってきて途中のバス停からお客を拾い、私の乗車していた車両の運転手は満員のため後からもう1台来る旨を伝えていた。このように、乗り換えを頼む時もあるほど利用率の高い路線では、15人のマイクロバスでは需要を満たせないケースが起こっている。

おわりに

町営バスの運行は、補助金の削減という課題を達成できたことに加え、公民館連絡協議会と連携することで、自治会単位の「地域」に責任を持たせるだけでなく、利用者もバス交通に対して親近感などを感じ、町営バスに信頼を置くことに繋がっている点を指摘できる。今回、バス交通を事例としたが、バス交通に限らず、地域のための交通は、日頃から地域で考えることが大変重要である。このように、地域に応じた公共交通のあり方や地域づくりのなかでどのように交通を位置付けていくのか、行政、事業者、住民が共に議論する必要がある、そのような体制や雰囲気を各自治体でつくっていかなければならない、と私は考える。このように、地域に根ざした公共交通の在り方を模索することが、存続の大きな鍵を握ることにつながるであろう。(2008.3 博士前期課程修了)

はじめまして。生まれは埼玉、育ちは愛媛の鈴木です。実家はみかん農家なのでみかんが欲しくなったらいつでも言ってください。

河野 茜

こんにちは！山形からはるばるやってきました。残念ながらさくらんぼの産地とはかけ離れた所に住んでいるので、安く入手するのは無理です！！でも仲良くしてくださいね？

## 新院生紹介

博士前期課程

叶 晨

上海出身です。地理学科に入って毎日とっても充実しています。まだわからないことばかりのわたしですがこれからもっと頑張りますのでよろしくお祈りします。

周 申申

HELLO, everybody!  
私は中国の一番素敵な町-上海出身です。私は海とビーチが大好きです。まだ、わからないところがたくさんありますので、みなさんよろしくお祈りします。

松田 玲

とある夜半、私はプロジェクトXを観ていた。そこに写る黒部第4ダムに畏敬なる姿を捉えた。その深山幽谷の地に人智との闘争による痕跡を認め、V字を塞ぐ客体はさながら黄金比のバランスの如く、静観するオブジェで、私はそこに美麗と壮大というものの高次での融合を画面越しに感応していたのである。翌日私がその地に足を踏み入れていた...

## 今後の研究会行事

### 1. 日帰り巡検のご案内

毎年研究会の恒例行事となっています日帰り巡検を下記の要領にて実施します。多くの卒業生、院生、現役学生の参加をお待ちしています。

テーマ：尼崎の形成・発展・再開発

日時：平成20年10月19日（日）10時00分～16時30分（予定）

集合：阪神電車武庫川駅 改札口前（9時50分）

コース：阪神電車武庫川駅（同駅周辺）→〈阪神電車〉→尼崎センタープール（競艇場）→中国街道（旧街道）→出屋敷商店街→寺町地区（伝統的町並み・城下町）→中央商店街・三和商店街〈昼食〉→築地5丁目～築地2丁目（液状化現象と復興）→大物（尼崎城跡と城下町）→杭瀬商店街→〈尼崎市バス〉→JR 尼崎（再開発が進む駅周辺）、現地解散

費用：340円（昼食代は各自負担）

その他：雨天決行。昼食は中央商店街および三和商店街の中の飲食店にて取ってもらいます。

連絡先：参加希望の方は10月15日（月）までに電話またはeメールで高島（090-5271-5435, t-rinkackle@docomo.ne.jp）までご連絡ください。

### 2. 地理学研究会第95回例会（研究例会）

日時：平成20年12月13日（土）15時開始 18時懇親会開始

会場：関西大学 第1学舎1号館 3階 A301教室

講演：堀内千加「わが国における近年の都心部の人口回復現象について」

辻 康男「地理学教室で学んだ地形学を軸とした地質コンサルタントとしての現業務・研究」

野間晴雄「関大 vs 関学-大学と郊外の比較系譜学-」

\*なお、例会の冒頭で博士前期課程学生による壱岐の実習調査報告を実施します。

## 教室だより

■第一学舎界限変貌 いま関西大学は物理的にもシステムの大きな変化を遂げている。地理学教室の拠点は永く第一学舎1号館（A棟）3階の地理学製図室、資料室、実験室にあった。ところが建て替えることになって、2007年1月には撤退した。その際に多くの資料や物品を処分した。雑誌の一部はベトナムのハノイ大学地理学教室や大手前大学文学部に寄付した。真鍮性の製図道具など、捨てるには惜しいものもあったが、末尾先生ご退職後、誰も使わないので、廃棄した。トレース台なども廃棄している。2008年4月には1号館は新築されて立派になったが、地理学教室は戻ることができなかった。時代は変わったのである。

地理学実験室と資料室は、地理学実習室がある4号館（D棟）の1階に移動した。4号館の西側には2mほどの崖があり、かつてサクラが美しかったがすべて伐採され、新しい6階建ての1号館が聳える。光うすきこの部屋をある女子学生は地下室と呼ぶ。トイレのそばの旧110号室が実験室、111号室が資料室である。とはいえ、文学部にあって今な

おこの環境は恵まれていると思う。ドラフトチャンバーからの排気は四号館の屋上までのびるダクトで誘導されている。重いX線回折装置の引っ越しが実現し、新規に動力電源が配置された。他の電源、LAN環境、冷暖房環境も整備されている。木庭は今研究棟の個人研究室には全くと言って良いほど行かず、実験室で学生と過ごしている。関西大学に感謝する次第である。

■入学（進学）生 平成19年度の学部進学生は15名（女12名、男3名）、大学院前期課程学生は5名（女3名、男2名）であった。後者の内部進学生は1名、社会人学生は1名であった。後期課程には5名。このうち内部進学生が2名、社会人学生が3名である。ベトナムからの留学生は別途、アジア文化交渉学の後期課程院生で野間先生と高橋先生から指導を受けている。大学院生は研修生の矢野司郎氏（高橋ゼミ）を入れて28名となっている。

4月24日（木）夜に「フランススパーコン」で歓迎会を開催した。これで地理学教室在学生の構成は2回生15名、3回生19名、

4回生16名, 大学院研修生1名, 大学院博士前期課程12名, 博士後期課程16名となり, 計79名となった。

■一泊巡検 恒例の本研究会1泊巡検は5月31日(土)~6月1日(日)に実施された。高橋, 伊東, 野間の3教員と19名の3回生, 2回生, 大学院生, 卒業生の吉兼崇博さん, 曾我傑さんも加えて, 中国山地の山崎断層, 智頭宿, 津山城下町を中心に巡検を行なった。本誌の「一泊巡検報告」をご覧ください。

■博士・修士論文中間発表会 7月12日に開催された。今回は, 教室始まって以来はじめて, 課程博士論文提出に向けての中間発表が4名に及んだ。本誌でははじめて, 発表タイトルも示す。

岡田良平 ラオ文化圏における農村社会の学校施設と進路選択の変容に関する教育地理学的研究 A study on geography of education in Lao cultural villages from the point of changing school facilities and life course.

松原光也 現代日本の地方中心都市における公共交通の展開とまちづくりに関する地理学的研究 A geography research on public transport and urban revitalization in central city of Japanese provinces.

石坂澄子 大阪府下における明治期作製の地籍図 - 現茨木市の事例 - Cadastral maps in Osaka Prefecture in the Meiji Period: A case study of Ibaraki City.

水田憲志 八重山と台湾の植民地近代一人の移動と開拓を中心に - Colonial modernity in the Yaeyama Archipelago and Taiwan focusing on migration and exploitation.

池田大志 外国人観光客及び移住者増加に伴うスキー場周辺地域の変容 - 長野県白馬村・北海道ニセコエリアの比較 - Change in regional structure around ski resorts with growth of foreign tourists and migration, compared between Hakuba Village and Niseko Area in Japan.

松村 弘 大阪市の都市観光の現状と今後の課題 The present situation and the future tasks of urban tourism in Osaka City.

徳田匡秀 山口県柳井市古市金屋地区の歴史的街並み保存と現代生活 Balance between traditional cityscape-reservation and modern life in Huruichi-Kanaya area of Yanai-shi, Yamaguchi Prefecture.

丸橋由起子 地域別にみた日本観光の実態分析と今後の課題 Regional analysis of Japan inbound Tourism for the next step.

的場貴之 東北タイ農村における水利用意識の変化 Changes of water-use awareness at a

farm village, Northeast Thailand.

舟越寿尚 大阪市における賃貸住宅の地域的特性 Regional peculiarities of rental housing in Osaka City, Japan.

■今後の研究発表会 卒業論文中間発表会は9月25日(木)に, 大学院博士前期課程1回生5名と後期課程1回生4名による研究発表会が9月27日(土)に実施されます。

■海外出張 野間 2008年5月20日~23日 ベトナム G-COE 経費 (2008年夏に実施する G-COE 教育プログラム「周辺プロジェクト講義」のベトナム, フェ調査の下準備) 2008年6月14日~20日 ラオス, ベトナム 科研費 (ビエンチャン近郊農村での学校林調査, 研究打ち合わせ) 8月17日~25日 インドネシア 私費 (スマトラ, 西ジャワ視察) 8月28日~9月14日 ベトナム G-COE 経費 (G-COE 教育プログラム「周辺プロジェクト講義」のベトナム, フェ調査と打ち合わせ会議)。

■在外研究 木庭は2008年9月19日より2009年3月20日まで在外研究(調査研究)で日本を留守にします。行く先はニュージーランドとオーストラリアで, ニュージーランド北島では主に火山, 南島では主に地殻変動, オーストラリアでは地殻変動を中心に研究します。在外中は, 市史の原稿, 「環境と社会」の本の編集, ニュージーランドの地形の本の取材も兼ねることになります。

■橋本先生が「ムラとマチの時空-社会と暮らしの地理-」(2008年3月, 関西大学出版部)を上梓されました。フランス学派社会学の方法論から, 砺波散村地域, 吉野山地・四国山地の山村地域, 都市「周辺」地域のムラとマチに関する論考が収められている, 長年にわたるご研究の集大成となる論文集である。

## )))) 平成19年度会計報告 ((((((

〈収入の部〉	
前年度繰越金	264,049 円
会費収入	114,000 円
利息	298 円
計	378,347 円

〈支出の部〉	
会報印刷費	69,825 円
通信費	32,340 円
備品購入費	3,150 円
計	105,315 円

平成18年度差引残高 273,032 円  
以上報告申し上げます。

(会計: 谷真理子・松井僚平・丸橋由起子)

高島正樹

去年まで地理学専修学部生でした。今年からは高校の非常勤講師もやってます。あと残り少ない学生生活「延長戦」を最大限活用したいです。よろしくお願ひします。

博士後期課程

白澤武蔵

定年までの職場とは違う価値観と環境で地理学を学ぶのが面白くて楽しいです。これからもよろしくお願ひします。

竹之下雄策

高校の教壇を降りて二年目が終わろうとする頃, 社会人入試の挑戦。久しぶりの学生定期通学で図書館の充実感激。たまに出会う教え子たちの成長が実に爽やか。

谷真理子

地理教室の一員となった学部2回生のときは, D課程まで進学するとは考えていませんでした。しかし, ここまで研究を続けてこれたのは地理という学問が非常に興味深く自由なテーマを多く含んでいるからだと思ひます。今後ともよろしくお願ひします。

Nguyen Thi Ha Thanh 博士課程後期(文化交渉学) 私の名前はグエン・ティ・ハー・ティンといいます。ベトナムのハノイから来ました。アジア文化交渉学の博士課程後期課程1年次生で, 歴史地理学に関心をもっています。

随想

# 都市景観の インタープリター

松村 嘉久

学問分野が異なると、学術用語に対するスタンスも異なることは、そう珍しいことではない。「景観 (landscape)」は幅広い分野で使用され、地理学でも重要な概念のひとつである。都市計画や景観工学といった分野で、景観という用語と親和性が高い動詞は、「創造する」や「修正する」であろう。景観行政と関わっては、「保全する」とともに「整備する」や「形成する」もよく用いられる。一方、地理学ではどうであろうか。ここまで紹介した動詞も使うけれども、その能動的なニュアンスに何か違和感を覚える。地理学で景観に最もなじむ動詞は何か、異論もあろうが、地図と同様、「読む」あるいは「読み解く」と答える人が多いのではなかろうか。

服装や髪形や言葉などの流行は、ひと昔もすれば記憶が薄れゆき、周辺へ伝播したとしても、遅かれ早かれ記憶から消えてゆく。ところが、河川の浸食や火山の噴火などの自然の営み、衣食住の確保や快適な生活維持のための人間の営み、これらが地表面に働きかけて刻み込んだ痕跡は、よほどのことがない限り消えない。たとえ新たな痕跡が刻み込まれ変化したとしても、たいていの場合は、かつて刻み込まれた痕跡の影響を強く受け、新たな痕跡のなかに過去の痕跡を見出せる。

我々が現代で観ている景観は、その時々自然と人間の営みの痕跡が、地層のように積み重なり形成されてきたものに他ならない。江戸時代の地層の一部が地表に露出している場合もあれば、昭和初期の地層がほぼそのまま残存している場合もある。異なる時代に異なる文法で刻み込まれた異なる痕跡が、同じ地表の構成要素として混在一体化して、現代の景観を形作っている。地理学が得意とするのは、そのような景観を丹念に読み解き、地域の特色を総体として描き出すことにある。

大阪において、国際観光学という学際的領域で教育研究活動を始めて、はや6年が過ぎた。大阪の観光の現場へ出てゆくなかで、その行く末を真摯に考え仕掛ける人たちが、その現場を支える人たちとの交流も深まった。最近では、国際観光学の立場、あるいは観光地理学の立場から、大阪の観光振興に向けた方法論や具体策の提言を求められることも少なくない。

さて、大阪観光を振興するためには、いったい何が必要なのか。神戸や京都と比較して、「大阪は汚くて歴史がない」と投げ捨てる人もいる。百歩譲って、神戸よりも「汚く」、京都よりも「歴史がない」としても、大阪はエキサイティングでエキゾチックな魅力にあふれている。

日本人の観光の在り方の質的変革を促すためにも、広く都市観光の理論的基盤を模索し振興するためにも、現代の大阪が最も必要としているのは、都市景観を読み解

く優れたインタープリター (interpreter) であろう。インタープリターとは、エコツーリズムの現場から出てきた言葉で、自然が発するメッセージを分かりやすく参加者に伝え、自然と参加者との出会いを仲介するなかで、喜びや感動を分かち合う解説活動を行う人のことである。従来のガイドは観光者がある所まで導き、ともすれば知識や情報を一方的に伝えるだけで終わった。インタープリターには、参加者が見たり体験したりする事象がどのような背景のもとで生起しているのか、それを巧みな話術で語り、参加者の興味を刺激し啓発するエンターテインメント性が要求される。

都市景観も自然と同様、様々な構成要素が複雑に絡み合いながら維持されている。その要素の一つだけを語っても、都市景観や自然の醍醐味には近づけない。大阪市内を歩くとよくわかるが、様々な時代に刻み込まれた痕跡が現代の地表に共時的に存在している。江戸時代の大阪だけを探して歩くと、不完全で中途半端な残骸に過ぎない。しかしながら、大阪の魅力を色々な時代の痕跡が共時的に存在するところがあると捉え、それを巧みに語るならば、大阪のゴチャゴチャとした多様性は大きい魅力へと昇華される。

都市景観のインタープリターは、すでに大阪で育ちつつある。例えば、一本松海運株式会社が運営する「なにわ探検クルーズ」は、落語家が巧みな語りで約90分の船旅を楽しませてくれる。道頓堀スタジオジャパンが繰り広げる大阪体験ツアーの数々も、インタープリターの巧みな語り商品価値を増している。

Tourism が「観光」と訳されるため、観光では「光り輝くものを観る」と思われがちである。しかしながら、Tourism の本質は、異文化理解であり異地域理解である。光り輝くものの背後には必ず影ができるが、インタープリターが介在すれば、影の部分も Tourism の対象となりえる。西成区の日雇労働者の街・釜ヶ崎で、「釜ヶ崎のまちスタディ・ツアー」が不定期に行われている。このツアーで釜ヶ崎という地域の成り立ちや現状を語る「おっちゃんガイド」たちも、立派なインタープリターである。

大阪のあちらこちらで、都市景観のインタープリターが育つことが、大阪の魅力の発見と発信に直結する。都市景観のインタープリテーションがもっと事業化されれば、着地型観光が大阪の地に根づくに違いない。大学で講義する私も、一方的に知識を教授するだけのガイドではなく、社会の現実を伝えるなかで学生の知性や探究心を刺激するインタープリターでありたい。

(阪南大学国際観光学科教授)

千里地理通信 第59号

2008年9月20日 発行

関西大学地理学研究会

〒564-8680 吹田市山手町3丁目3-35

関西大学文学部地理学教室内

Tel: 06-6368-1121 (内線 4890: 大学院生室)

e-mail: moto@ipcku.kansai-u.ac.jp

URL: [http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~moto/KU\\_Geography/](http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~moto/KU_Geography/)

郵便振替: 大阪 00970-4-81149